

学習実態調査結果の分析

学習を成立させる基盤となる様々な力をまとめて「学びの基礎力」と考え、次の4つの領域に分類した。

- ・「生活体験等」

家庭・学校・地域等において、ふだん児童が経験する様々な活動や事象

- ・「学びに向かう力」

学習成立にとってのいわば「原動力」ともいえる「学習意欲や学習動機、目的意識」、そしてそれらと密接な関係をもつとされる「自己肯定感」など

- ・「自己学習力」

学習を効果的・効率的に進めるとともに、生涯にわたって自ら学び続ける上でのベースとなる「学習上のスキルや態度」

- ・「自己コントロール」

上記の「学びに向かう力」や「自己学習力」を方向付け、その遂行に向けて自らの学習行動を制御していく機能

学習実態調査（「学習についてのアンケート」）の設問項目のうち、上記の「学びの基礎力」を構成する4つの領域に関わる49項目について分類・整理し、平成14年2月に実施した国の「教育課程実施状況調査」の結果も交えながら、分析を行った。

1 「生活体験等」について

（1） 直接体験

「自然の中で遊んだり、生き物にふれたりする」体験と「地域の活動や行事に参加する」体験を行っているとは回答した児童の割合は、それぞれ70.8%と68.4%である。

また、「先生や家族以外のおとなの人と話をする」児童の割合は71.7%、「年下の子どもと話したり、いっしょに遊んだりする」児童の割合は81.8%であり、地域や学校など生活の中において、異年齢の人とかかわりをもっている様子がうかがえる。

一方、「家族から仕事のやりがいや苦労について話を聞く」と回答した児童の割合は43.7%である。生活の基盤の一つであり、生き方にも大きくかかわる仕事や職業、勤労について、最も身近なおとなである家族から話を聞く体験が少ないことが分かる。

「家での決まった自分の役割」は75.9%の児童が果たしている。

（2） 読書・メディア体験

「新聞のニュース記事を読む」、「インターネットを使って何かを調べる」体験を行っているとは回答した児童の割合は、それぞれ54.2%と49.3%である。

また、「手紙やはがきを書く」体験を授業時間以外にしている児童の割合も51.2%となっている。反面、それらを全く行っていない児童の割合は、それぞれ13.8%、23.9%、18.6%となっている。

1か月間の読書状況を見ると、6冊以上読んでいる児童は全体の31.5%、3冊から5冊の児童が32.6%となっている。本を全く読まないと回答した児童の割合は7.5%で、全国調査での8.9%と比べると本県では1.4ポイント低い数値を示している。

(3) 他者との支え合い

家族とのかかわりについては、家族の温かい思いを受け止め「自分のことを気にかけてくれている」と感じている児童の割合は88.3%である。「学校でのできごとなどについて自分から家族に話をする」児童も76.7%おり、家族との会話ができている児童の割合が高いことが分かる。しかし、7.1%の児童は家族へ自分から話をしていない現状があることから、自分から話さない、あるいは話せない要因を考えていかなければならない。

学校についてみると、「学校の先生は自分たちの話をよく聞いてくれると思う」と思っている児童の割合は82.5%で、さらに、「学校へ行くのが楽しい」と思っている児童は、国の調査より4.4ポイント高い80.1%となっている。また、「自分の考えや気持ちを理解してくれる友だちがいる」と回答した児童は、全体の85.1%であった。

(4) 基本的な生活習慣

朝の生活習慣についてみてみると、「朝自分で起きることができる」児童は、全体の65.4%、「朝食は毎日食べている」と回答した児童の割合は、国の調査とほぼ同程度の92.2%であった。

2 「学びに向かう力」について

(1) 感じ取る力

『ふしぎだな』『なぜだろう』と「感じ」たり、「本などから人の生き方に感動」したりしている児童の割合は、それぞれ64.4%、62.2%である。また、「勉強することがおもしろい、楽しいと思うことがよくある」と思っている児童の割合も62.8%となっている。しかし、これらの項目について、「あてはまらない」と回答した児童が、それぞれ10.2%、13.5%、10.2%いる。

(2) 学習動機

勉強に対する意識として、「勉強で得た知識は役に立つと思う」と回答した児童の割合は、国の調査より6.9ポイント高く、88.4%であった。「勉強して何かが分かるようになることはうれしい」、「勉強してもっと力や自信をつけたい」と回答した児童の割合も、それぞれ88.4%、84.1%と、高い数値を示している。

(3) 自己有用感

「自分はやればできる」と思っている児童の割合は、国の調査より14ポイント高く、81.2%である、また、「最後までやりとげた経験が多い」と回答した児童の割合は、72.4%となっている。

(4) 自己責任感

「苦手な教科も得意になるように努力している」と回答した児童は、全体の85.9%である。また、「成績が悪かったときは、自分の努力が足りなかったからだ」と振り返り、「同じ失敗を繰り返さないように」気を付けるよう努力している児童の割合は、それぞれ86.6%、85.3%となっている。

3 「自己学習力」について

(1) 学習スキル

「黒板に書かれなくても大事なことや気づいたことはノートに書きとめている」と回答した児童は49.7%にとどまっている。一方、「友達や先生から聞いた勉強のやり方を参考」にしようとしている児童の割合は、80.6%となっている。また、「テストで間違った問題をやり直している」児童は、73.2%いる。

(2) 学習計画力

「ふだんから計画を立てて勉強している」と回答した児童の割合は、39.2%、「自分が調べてみたいことについて、活動計画を立てることができる」と回答した児童の割合も51.4%にとどまり、計画的に学びに向かう児童の割合は高いとは言えない。

(3) 家庭学習習慣

「授業で習ったことは、その日のうちに復習している」と回答した児童の割合は29.4%、「授業で習ったことを、自分でもっと調べている」児童の割合は26.1%と、復習をしたり、授業の発展学習を行ったりする児童の割合は低い。一方、これらの項目について、「まったくあてはまらない」と回答した児童の割合は、27.3%、30.9%となっている。

宿題については、全体の88.9%の児童が「きちんとやっている」と回答しており、「家族に言われなくても自分から進んで勉強している」児童も66.5%いる。

このことから、自宅での学習習慣は身に付いている児童が多いが、その内容は宿題が中心であり、自分で考えた学習内容に取り組む児童は、少ないことがうかがえる。

4 「自己コントロール」について

(1) 学習継続力

「何ごとに対しても，こつこつと努力している」「分からないことをそのままにせず，分かるまでがんばる」と回答した児童の割合は，それぞれ70.3%，73.6%となっている。勉強していることが分かるまで努力する様子が見える。

(2) 学習のけじめ

「勉強するときはしっかり勉強し，遊ぶときはしっかり遊んでいる」と回答した児童の割合は80.5%，「勉強に集中していて，いつのまにか時間がたっていることがある」と回答した児童の割合は72.0%であり，勉強と遊びのけじめをつけるよう努力している児童が多いことがうかがえる。

(3) 話す・聞く姿勢

「人の話は最後まできちんと聞くようにしている」と回答した児童の割合は77.8%で，努力している児童が多いことがうかがえる。また，「相手の目を見て，はっきりと話すようにしている」と回答した児童は63.9%となっている。

5 その他について

(1) 問題解決力

「自分が調べてみたいことについて，活動の計画を立てることができる」と回答した児童は51.4%である。

また，「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」と回答した児童は55.4%にとどまっていることから，話すことへの抵抗感や苦手意識等が見える。

(2) 社会的実践力

「意見のちがう人とも協力し合うことができる」と回答した児童の割合は64.7%，「人のために役立つことをするように心がけている」と回答した児童の割合は70.9%である。しかし，「もめごとが起こったときには，間に立ってまとめ役になる」と回答した児童の割合は36.5%と少なくなっている。

(3) 豊かな心

「自分がやらなければならないことは，責任をもってやりぬくことができる」と回答した児童の割合は71.9%，「楽しいことを見つけることが得意である」と回答した児童の割合は70.8%であるが，「いつも新しいアイデアを考えたり，工夫したりしている」と回答した児童の割合は55.2%と低くなっている。しなくてはいけないことに対する責任感はあると思われる反面，新しいことへの取り組みに対しては，やや消極的な面が見られる。

(4) 自己成長力

「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童が全体の79.6%いる。自分の夢や目標をもつことができている様子が見える。

しかしながら、「自分はまわりの人からみとめられていると思う」と回答した児童は全体の37.6%にとどまっており、自己肯定感が低い児童が多いことが分かる。

(5) 学校以外での勉強時間

学校以外での勉強時間については、「1時間以上している」児童の割合は51.6%で、国の調査より13.7ポイント高かった。また「ほとんどしていない」児童の割合は7.3%で、国の調査を3.3ポイント下回っており、学校以外で勉強を行っている児童の割合は全国調査よりも高い。

(6) 授業の中で分からないことがあった時

「授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか」という設問については、回答の割合の高い順に「家族、友達にたずねる」「教師に聞く」「自分で調べる」であった。自分なりの解決方法を持ち、解決しようと試みている様子が見える。しかしながら10.5%の児童が「そのままにしておく」と回答している。

(7) 教科の勉強の好き嫌い

各教科、総合的な学習の時間に対する「好き・嫌い」の意識結果としては、技能系教科が好まれている傾向が見られる。

最近理科離れがよく指摘されているが、本調査結果では、理科が好きと回答している児童の割合が他の教科に比べ最も高かった。(68.2%)